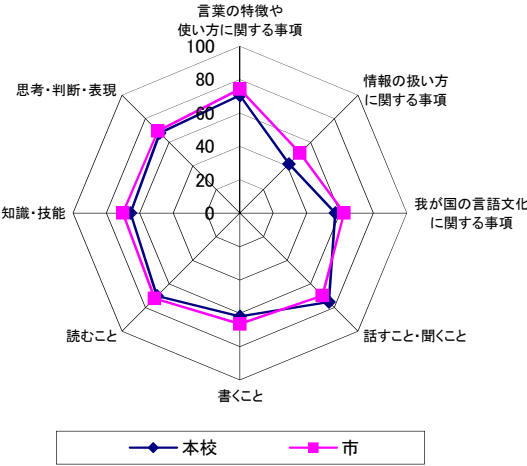


宇都宮市立田原西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.6	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	41.7	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	57.1	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	75.4	69.9	69.7
	書くこと	61.9	66.4	64.6
	読むこと	70.2	72.3	71.0
観点別	知識・技能	65.5	70.1	70.0
	思考・判断・表現	67.9	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

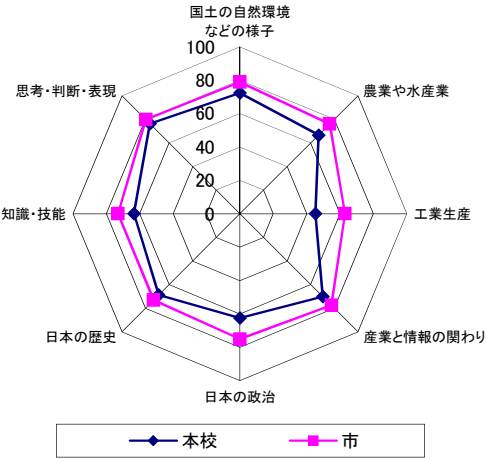
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	・市の平均を下回った。 ○6年生の漢字は市を上回り、定着しているといえる。 ●5年生の漢字が定着していない。学習したばかりの漢字やよく使う漢字は理解しているが、使うことが少ない漢字が定着率が良くない。 ●熟語の成り立ちについてが身に付いていない。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・どの教科でも、文章を書くときは、習った漢字を使うことを徹底する。 ・漢字については、定期的な漢字復習テストを行ったり、朝学や宿題で繰り返したり、方法を工夫して定着を図る。 ・国語辞典や漢和辞典で分からない言葉を調べる習慣を身に付けさせる。
情報の扱い方に関する事項	・市の平均を大きく下回った。 ○情報と情報との関係を理解し、64%が文章の情報を整理して書くことができた。 ●複数の資料を読んで、情報と情報の関係について理解し、目的に応じて報告する文章を書くことが難しく、正答率は19%と低かった。 ●正しい内容を選んでいるが、69%が不要な内容を書き足してしまった。	・国語だけに限らず、社会や総合的な学習の時間などで資料から分かることを文章でまとめる学習を繰り返し行う。 ・他教科と関連付け、グラフから読み取れること、写真から分かることなどを自分で文章に書く経験を積む。 ・数種類の資料を読み、その中から必要な情報だけを選び取る学習を行う。
我が国の言語文化に関する事項	・市の平均を下回った。 ○漢字の由来について57%が理解できていた。 ●漢字は意味を表す部分と音を表す部分からなることを理解できず、音読みだけで解答を選んでいる。	・新出漢字を学習するときに、書き順や読み方だけでなく、漢字のへんやつくり、成り立ちなども調べたり意図的に触れたりする機会を設ける。 ・漢字練習や自主学習などで、漢字を書くだけでなく、漢字の由来や成り立ちなどに触れるようにする。
話すこと・聞くこと	・市の平均を上回った。 ○話し手の目的に応じて、話の内容を捉える問題は100%だった。 ●司会者になったつもりで発言者に注意をする設問では、50%が正しい内容が書けなかった。	・国語に限らず、各教科で話し合い活動の機会を多くし、司会者や発言者の役割を意識して話し合うような指導を行う。 ・様々な教科で友達のスピーチや教師の話の聞いて、要旨をメモしたり短くまとめたりする活動を積極的に行う。
書くこと	・市の平均を下回った。 ○指定された長さで文章を書くことは市の平均を上回った。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことが難しい。 ●グラフから読み取った事実を書くことや、事実を基に自分の意見を明確に書くことが難しかった。	・国語に限らず、様々な場面で、事実と自分の考えを区別して文章を書く活動を行う。 ・各教科で文字数や段落の数などの条件を指定して文章を書く活動を日頃から取り入れる。
読むこと	・市の平均を下回った。 ○物語文を読み取り、他の人と感想を共有し、自分の考えを広げえる問題は市の平均を12ポイント上回った。 ●物語文の読み取りで登場人物の行動や心情を叙述を基に捉えることは難しい。 ●説明的文章では情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理することが難しい。	・物語文では、心情の読み取りだけでなく、全体の背景や生き様などを読み取る指導を行っていく。 ・物語文の文章の構成や表現の工夫にも目を向けて指導をする。 ・説明的文章では、情報と情報の関係について読み取り、整理する指導を行っていく。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.4	78.9	75.4
	農業や水産業	66.7	76.1	71.2
	工業生産	45.2	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	70.2	77.6	59.7
	日本の政治	62.5	75.0	79.3
	日本の歴史	68.8	73.1	72.8
観点別	知識・技能	63.5	73.0	71.4
	思考・判断・表現	76.2	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

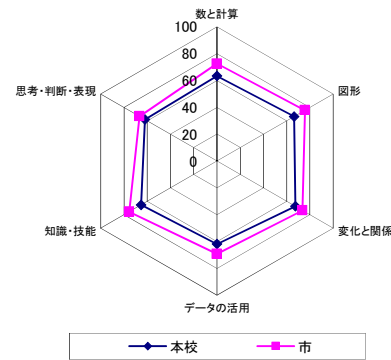
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・全体としては市の平均を下回った。 ○日本周辺の海洋名を問う問題では、市の平均と同等で9割近い正答率であった。 ●中国の国旗と位置を問う問題では、市の平均を下回った。	・授業の中で世界地図を活用し、定期的に国名や位置を復習する。 ・社会科の学習に限らず国旗や国名がでてきた際には地図などで位置を確認する。
農業や水産業	・全体としては市の平均を下回った。 ○複数の資料から魚の流通について問う問題では、市の平均と同等で、8割を超える正答率であった。 ●日本の農業について資料をもとに考える問題では、市の平均を下回った。	・グラフや地図など様々な資料を定期的に扱い、資料の読み取りに慣れさせる。 ・問題をよく読み、資料から必要な情報を確実に読み取る習慣を身に付けられるようにする。
工業生産	・全体としては市の平均を大きく下回った。 ●大工場と中小工場の理解をもとに資料を読み取る問題では、市の平均を24%下回った。 ●自動車工場の作業工程について資料と文章を結び付けて考える問題では市の平均を21%下回った。	・グラフや地図、写真などの資料から必要な情報を読み取る方法について繰り返し指導する。 ・資料から読み取ったことを様々な形で文章化する練習をする。
産業と情報の関わり	・全体としては、市の平均を下回った。 ●インターネットの利用時における注意点やポイントカードの利点を問う問題のいずれも市の平均を下回った。	・日常生活における情報化社会に目を向けさせ、それらの適切な利用法について指導する。 ・テレビや新聞のニュースなど、現在の社会事象などに関心を持たせるようにする。
日本の政治	・全体としては、市の平均を下回った。 ●日本国憲法や国会のしくみを問う問題では市の平均を下回った。	・教科書以外の映像資料を活用し、文字としての理解にとどまらず、世の中のことに関心をもった上で正確に理解できるようにする。
日本の歴史	・全体としては、市の平均を下回った。 ○弥生時代のくらしの様子を資料をもとに文章で答える問題では市の平均を上回った。 ○元寇の様子を資料から読み取る問題では市の平均を上回った。 ●年表をもとに飛鳥時代の出来事について問う問題では市の平均を下回った。	・年表を活用し、歴史的な背景や前後の出来事を確認しながらそれぞれの時代の様子について理解させるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	63.4	72.6	73.1
	図形	66.4	75.7	74.7
	変化と関係	67.5	73.6	66.1
	データの活用	61.9	69.2	70.7
観点別	知識・技能	65.3	75.5	74.4
	思考・判断・表現	61.9	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

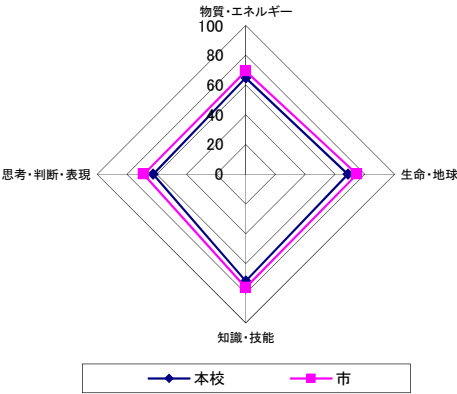
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・平均正答率は、市の平均を下回った。 ●小数や分数の乗除の計算は、市の平均正答率を下回った。 ●小数倍を求める文章問題では、市の平均正答率を下回った。 ●単位量あたりの大きさを求める問題では、市の平均正答率を下回った。 ●文字の式の問題では、市の平均正答率を下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・各学年で身に付ける内容について、それぞれに学年において確実に身に付いていない児童が見られるので、今後も繰り返し練習に取り組み、定着を図る。また、分数の問題では、通分や約分などが確実にできるように練習すると共に、分数のわり算の意味の理解を深めるために面積図に戻って説明するなどして定着を図る。
図形	・平均正答率は、市の平均を下回った。 ○合同な図形の作図の問題では、市の平均正答率を少し上回った。 ●面積や体積を求める問題では、市の平均正答率を下回った。 ●三角形の外角を求める問題や、多角形の内角の和を求める問題では、市の平均正答率を下回った。 ●対称の図形についての問題では、市の平均を下回った。	・三角形や四角形の作図は、様々な条件のもとで描けるよう、授業の中で条件を与えて取り組んでいく。 ・面積や体積を求める公式を正しく身に付け、公式を活用して繰り返し問題に取り組むと共に、公式の意味についても丁寧に指導を行う。 ・図形の内角や外角を求める問題では、三角形の内角の和が180°であることの復習を行うと共に、角の大小を見極める感覚を養っていく。 ・対称の図形では、線対称と点対称の違いが理解できるように指導を行っていく。その際、図形に線を書き込むなど、具体的な操作をしながら問題を解決していくことを指導していく。
変化と関係	・平均正答率は、市の平均を下回った。 ○単位量あたりの大きさを求める問題で、混み具合を求める問題では、市の平均正答率を上回った。 ○割合の問題で、半分が何%であるかを求める問題では、正答率が95%を超え、市の平均正答率を上回った。 ●速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、市の平均正答率を大きく下回った。	・平均の学習をする際には、平均の意味を正しく捉えさせることで、値に0がある問題場面を想起させ、正しく求めることができるようにする。 ・込み具合や速さなどの単位量あたりの大きさを求める問題では、何をもとにして何を比べるのか、数直線に表して立式できるように指導していく。特に、速さの単位の変換では、速さが表す意味について理解させる。
データの活用	・平均正答率は、市の平均を下回った。 ●値に0のある数値の平均を求める問題では、市の平均正答率を下回った。 ●円グラフの数値を読み取る問題では、市の平均正答率とほぼ同等で、約9割が正答した。しかし、円グラフの基準量から比較量を求める問題は正答率が2割で、市の平均正答率を下回った。 ●ドットプロットを読み取り、度数分布表に表す問題では、正答率が9割を超え、市の平均正答率を上回ったが、ドットプロットの最頻値を読み取る問題では、市の平均正答率を下回った。また、代表値を用いて説明する問題では、正答率が2割と市の平均正答率を下回った。	・データの見方の問題では、度数分布表についてそれぞれの数値が何を表しているものか理解させると共に、最頻値、代表値などの算数用語についても正しく身に付けるようにしていく。 ・資料を見比べ、関連付けて考える問題は、算数だけでなく理科や社会などの他教科でも積極的に取り入れていく。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.8	69.3	65.7
	生命・地球	68.6	74.7	77.8
観点別	知識・技能	71.8	76.2	76.4
	思考・判断・表現	62.4	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	- 平均正答率は市の平均を下回った。 ○「物の燃え方」では、空気に含まれている気体で物を燃やす働きがないものについて理解している児童が市や県の平均を上回った。 ●「電流のはたらき」ではコイルの巻き数が磁力の大きさと関係していることについての理解が不十分であった。 ●「物のとけ方」では水に食塩を溶かしても総重量が変わらないことに対する理解が不十分であった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・用具や器具の扱い方や特徴について繰り返し学習させ、正しい知識の定着が図れるようにする。 ・電流の大きさやコイルの巻き数などに着目して条件を制御しながら電磁石の強さを変化させる要因を調べることで、磁力と巻き数の関連性を正しくとらえることができるようにする。 ・物が水に溶ける量や全体の量に着目させ、溶かす前の物の重さに、水の重さを加えた全体の重さと溶かした後の水溶液の重さの変化を比較しながら調べることで、溶かす前後の総質量に変化がないことを理解できるようにする。
生命・地球	- 平均正答率は市の平均を下回った。 ○「生物とかんきょう」では「食べる」「食べられる」の関係性を注意深く観察し、食物連鎖について正しく理解している児童が市や県の平均を上回った。 ●「動物の体のつくりとはたらき」ではだ液がはたらく適温やだ液と水の対照実験の意味についての理解が充分でなかった。また呼吸のはたらきについて、肺でのガス交換と周囲の空気との関連性を理解することができていない。 ●「植物のつくりとはたらき」ではヨウ素でんぷん反応の結果から光合成が行われた葉を指摘することができていない。 ●「月と太陽」では月が太陽の光を反射させて輝いていることを十分に理解できていなかった。	・人や他の動物の体について、体のつくりと呼吸、消化のはたらきに着目させ、循環器のはたらきと関係づけて多面的に調べる活動を取り入れる。 ・植物の体のつくりと葉で養分をつくる働きに着目させ、日光と葉の中のでんぷんの量との関連性に気付くことができるように視点を明確にした実験を行うとともに、映像資料を活用し、多面的に追究する力を身に付けさせる。 ・月と太陽の位置に着目して月の形の見え方と太陽の位置関係を実際に観察したりモデルや図で表したりして多面的に調べる体験を増やし、理解を深めることができるようにする。